

薬剤師職能の流れは、患者中心

第25回FAPA Congress 参加レポート

城西国際大学薬学部教授 山村 重雄

第25回FAPA (Federation of Asian Pharmacological Associations) がマレーシアのコタキナバルで、10月9〜12日に開催されました。FAPA Congressは2年に1度開催され、今回は25回、50周年に当たる記念の会として盛大に行われました。コタキナバルはボルネオ島の北に位置する観光都市として有名であり、海産物を特産としてゝる小さな町です。



参加していたイギリス王室薬剤師会会長 Mr.Ashok Soni Obeさんと



前WHO Western Pacific Region代表 Dr. Snaotoさんと

今回のFAPAのメインテーマは「Expanding The Pharmacists' Roles in Wellness and Sustainable Health」(健康であること、健康状態を維持のために薬剤師の役割を拡大する)であり、アジア諸国から約1200人の参加者がありました。会期中は残念ながら天候には恵まられませんでした。そのおかげで多くの参加者が会場に足を運ばせいか、いつもにも増して会場は活気がありました。

日本では、ちょうど日本薬剤師会学術大会の日程と重なり、この数回のFAPAに比べて参加者数は多くありませんでした。今回のFAPAの特徴としては、参加者に対して、様々な交流の場が

提供されていたことが挙げられます。

学会全体をとおして、薬剤師の職能についての議論が多く交わされ、多くの国の代表が薬剤師の職能は「Product Oriented」から「Patient Oriented」へ向かわなければならぬと発表していました。

従事者との協力が必要であると述べました。その上で、世界的に見ても薬剤師はその変化を「New or Never」、今やるのか、それともやらないのか、が問われていると強調しました。

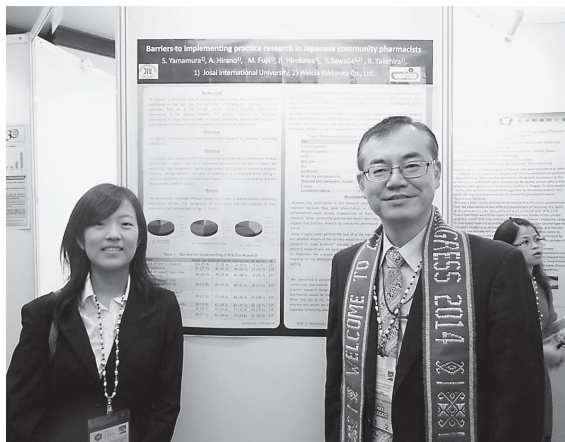
分科会では、20のシンポジウム、口頭発表、ポスター発表が行われました。各国で行われている

様々な試みや、各国の抱えている様々な問題点について報告されました。日本からはいくつかのポスター発表があったものの、残念ながら口頭発表はひとつもなく、日本の若い薬剤師には、どんなアジアや世界に出て行って、日本の現状、日本の薬剤師の活動について発表していく積極性がほしいと感じました。

最終日のガラディナーでは、ファッションショーも行われ、パーティー終了の時間が来ても、多くの立ち去り難い人たちが残り、互いに再会を約束しながら会場を後にしていました。いずれのイベントでも、FAPAとしてアジア諸国の薬剤師に国際交流の場を提供するという、会の意気込みが感じられました。

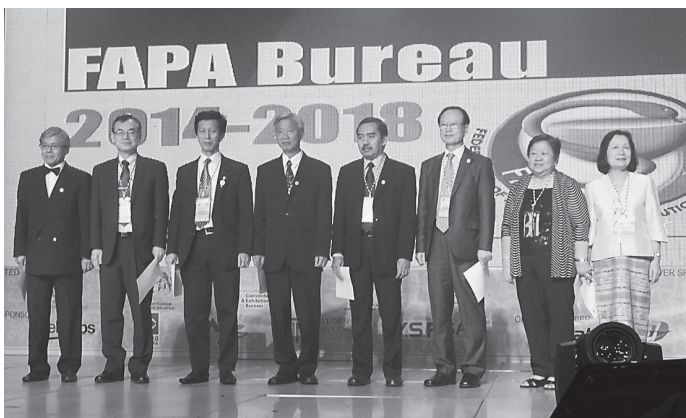
今年、役員の変更の年に当たり、次期の会長に「Bai」(インドネシア)が選ばれました。また、副会長には、日本(山村)、シンガポール、フィリピン、タイ、韓国からノミネットされた代表が選ばれました。また、各セクションの代表(チェアマン)の選挙も行われ、日本からはCommunity Pharmacyセクション(開局薬剤師部会)で、曲淵直喜氏(佐賀県薬剤師会副会長)がめでたく当選

されました。2016年にタイのバンコクでの開催が決まっております。今年新たに18年にはフィリピンのマニラで開催されることと決定しました。ぜひ、多くの日本の薬剤師の先生方に参加していただき、日本の薬剤師の活動をアジアに向けて発信していただきたいと思



会場で、本学の5年生学生と

その中で、特別講演したイギリス王室薬剤師会会長のAshok Soni氏は、これからの薬剤師には、「Product Oriented」な調剤中心の仕事から、幅広いサービスを提供することが求められていると発表しました。発表の中で、世界的に見た薬剤師の職能を、求められている職能をそれぞれ具体的にあげ、薬剤師の職能を変えていくためには他の医療



次期執行部



マレーシアからタイへFAPAフラッグの手渡し

たいと思